

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎ 2 段階選抜実施状況

□ 第 1 段階選抜不合格者数は全日程で大幅増加
 大学別では、前期は東京大、中期・後期は山梨大が最多

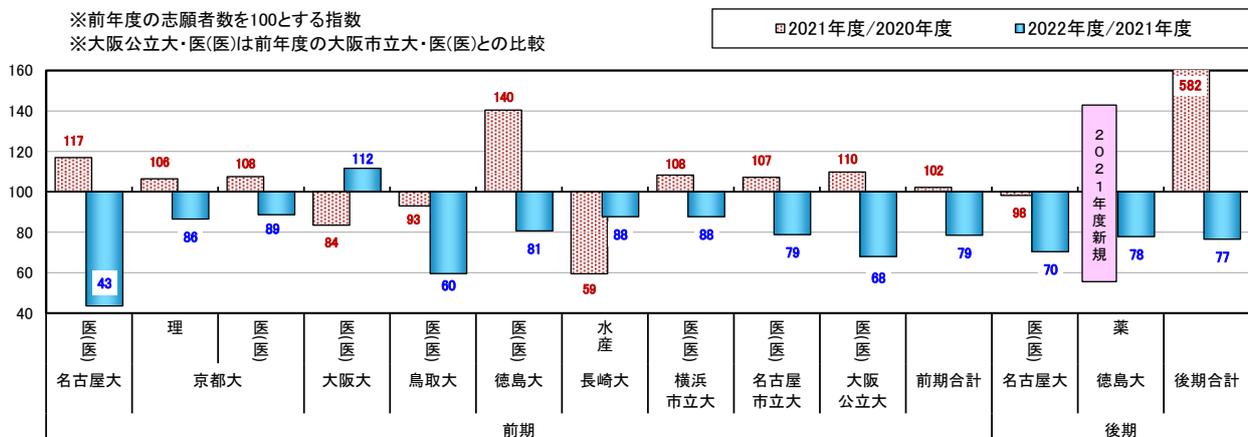
〔 2 段階選抜実施状況(不合格者数) 〕

	前期				中期・後期				合計			
	2022年度	2021年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	増減数	指数	2022年度	2021年度	増減数	指数
国立大	2,431	1,448	+983	168	3,751	3,546	+205	106	6,182	4,994	+1,188	124
公立大	642	691	-49	93	1,385	605	+780	229	2,027	1,296	+731	156
合計	3,073	2,139	+934	144	5,136	4,151	+985	124	8,209	6,290	+1,919	131

〔 2 段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学 〕

順位	前期				中期・後期			
	2022年度		2021年度		2022年度		2021年度	
	1	東京大	857	東京大	482	山梨大	717	岐阜大
2	東京都立大	375	東京都立大	445	大阪公立大	682	電気通信大	480
3	一橋大	218	愛媛大	201	奈良県立医科大	563	東京都立大	413
4	香川大	204	一橋大	149	一橋大	435	千葉大	351
5	滋賀医科大	165	福島県立医科大	142	東北大	349	一橋大	261
6	岡山大	157	信州大	94	電気通信大	338	東北大	198
7	和歌山県立医科大	122	千葉大	83	山口大	300	宮崎大	176
8	群馬大	103	旭川医科大	78	岐阜大	254	浜松医科大	157
9	福井大	95	金沢大	64	鹿児島大	191	山梨大	157
10	長崎大	89	高知大	53	九州大	166	奈良県立医科大	146
全体	3,073		2,139		5,136		4,151	

2 段階選抜における第 1 段階選抜不合格者数は、前年度は全体で 1,700 人以上増加しましたが、今年度も引き続き 1,919 人の大幅増加(131)で、前期で 934 人、中期・後期で 985 人の増加となりました。共通テストの平均点ダウンの中でも、成績上位層を中心に強気な出願が行われたことがうかがえます。



一方で、共通テストの平均点ダウンは第 1 段階選抜を基準点で実施する大学・学部への志願者数減少に影響を与えました。上のグラフは、基準点で第 1 段階選抜を実施する国公立大の学部・学科における志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。前年度の大規模減少の反動と京都大からの志望変更先として狙われた大阪大・医(医)<前>を除いて、いずれも減少していることがわかります。前年度の反動の影響もありますが、共

通テストの予想をはるかに超える平均点ダウンにより、基準点をクリアできなくなった受験生の増加が志願者数減少影響を与えたことがうかがえます。

第1段階選抜の不合格者数は、前期では3,073人で934人(144)の大幅増加でした。国立大は983人(168)の大幅増加、公立大は49人(93)の減少でした。

大学別では、東京大が3年連続不合格者数最多でした。前年度志願倍率が予告倍率を上回らなかったため実施されなかった文科二類を含む全ての科類で第1段階選抜が実施され、不合格者数も482人→857人(178)と大幅増加しました。特に、理科二類では志願者数が1,980人→2,235人(113)と増加したため、366人が不合格となりました。2番目に多かったのは東京都立大ですが、不合格者数は445人→375人(84)と大幅減少しました。3番目に多かったのは一橋大で、予告倍率を上回った学部は4学部中2学部→3学部と増加しました。

中期・後期では5,136人で、国立大は205人(106)のやや増加、公立大は780人(229)の激増でした。大学別では、山梨大が不合格者数最多でした。医(医)の志願者数が富山大・医(医)の後期廃止の影響と2年連続減少の反動で、1,057人→1,621人(153)の大幅増加となり多くの不合格者が出ました。2番目に多かったのは大阪公立大です。第1段階選抜が実施されたのは工<中>と法<後>のみですが、志願者数が6,200人だった工<中>で587人が不合格者となりました。3番目に多かった奈良県立医科大では医(医)で実施され、不合格者数は146人→563人(386)の大幅増加でした。

なお、2023年度入試での出願にあたっては、2段階選抜実施の有無、予告倍率の変更などに注意を払うとともに、第1段階選抜合格者数の実数をチェックして、予告倍率通りに実施されたか、それとも緩和されたかを把握したうえで出願校を決定することが大切です。また、コロナ禍の状況により、試験教室定員の減員によって以前より厳しい第1段階選抜を行った大学もありました。2023年度入試でもコロナ禍への対応について大学からの発表に、引き続き注意が必要です。